

# 図書館通信

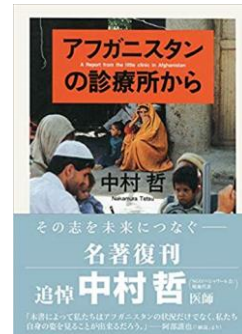
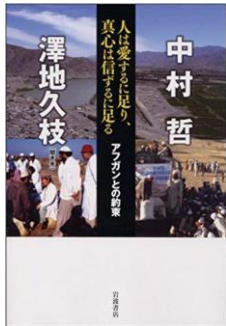
松山城南高校
図書・情報委員会
R2. 2
No.8

## ☆図書館を訪れる理由

図書館には、生徒だけではなく先生方も本を借りに来られます。冬休み中、『ズッコケ三人組』という本を借りに来られた先生がいらっしゃいました。小学生の3人組が活躍する児童書です。1978年に1巻が刊行されてから、本編50巻に加えて中年編・熟年編とシリーズ化された大人気の本です。40年も前に刊行された児童書をどうして先生が借りて行かれるのだらうと思いましたが、「テレビで紹介されていたので読んでみようと思った」とのことでした。作者の那須正幹さんが、昨年、JXTG児童文化賞を受賞されたことで、テレビでも紹介されたようです。『ズッコケ三人組』シリーズは、子どもたちが直面する問題をリアルに描いた児童書です。（かつては、取り上げる問題が現実的すぎて児童書らしくない、ということで子どもに読ませるのを躊躇する家庭もあったようです。）子どもたちが厳しい現実と直面しながらもそれを乗り越えて行く姿に、大人もハッと気づかされるものがあります。高校生である皆さんも、感動できること間違いなしのシリーズだと思いますので、是非、手に取ってみてください。

## ☆知ることから始めよう

昨年12月にアフガニスタンで銃撃を受けて亡くなった、民間活動団体（NGO）「ペシャワール会」現地代表で医師の中村哲さん（当時73歳）。戦乱と干ばつに苦しむ人々を救い続けた中村さんの著書から、私たちは多くのことを学べるのではないのでしょうか？聖書科の先生が選んでくださった以下の本が届きました。世界の人々に目を向け、城南高校の建学の精神の一つである「人間尊重」の心を培いましょう。



## ☆本屋大賞2020年のノミネート10作品発表

本屋大賞は、日本の書店員さんたちが「自分が読んで面白かった」「人に勧めたい」と思う本を選び投票するものです。本のプロである書店員さんたちはどんな本を支持しているのか、是非読んでみてください。どの本が大賞になるか、予想しながら全作品を読破するのも楽しいと思います。現在、『線は、僕を描く』、『ムゲンのi(上)(下)』、『ライオンのおやつ』、『medium 霊媒探偵城塚翡翠』が図書館に入っています。その他の作品も近々届く予定です。



- ・『線は、僕を描く』（砥上裕将／講談社）
- ・『店長がバカすぎて』（早見和真／角川春樹事務所）
- ・『夏物語』（川上未映子／文藝春秋）
- ・『熱源』（川越宗一／文藝春秋）
- ・『ノースライト』（横山秀夫／新潮社）
- ・『おかしおかしあるところに、死体がありました。』（青柳碧人／双葉社）
- ・『ムゲンのi』（知念実希人／双葉社）
- ・『medium 霊媒探偵城塚翡翠』（相沢沙呼／講談社）
- ・『ライオンのおやつ』（小川糸／ポプラ社）
- ・『流浪の月』（凧良ゆう／東京創元社）